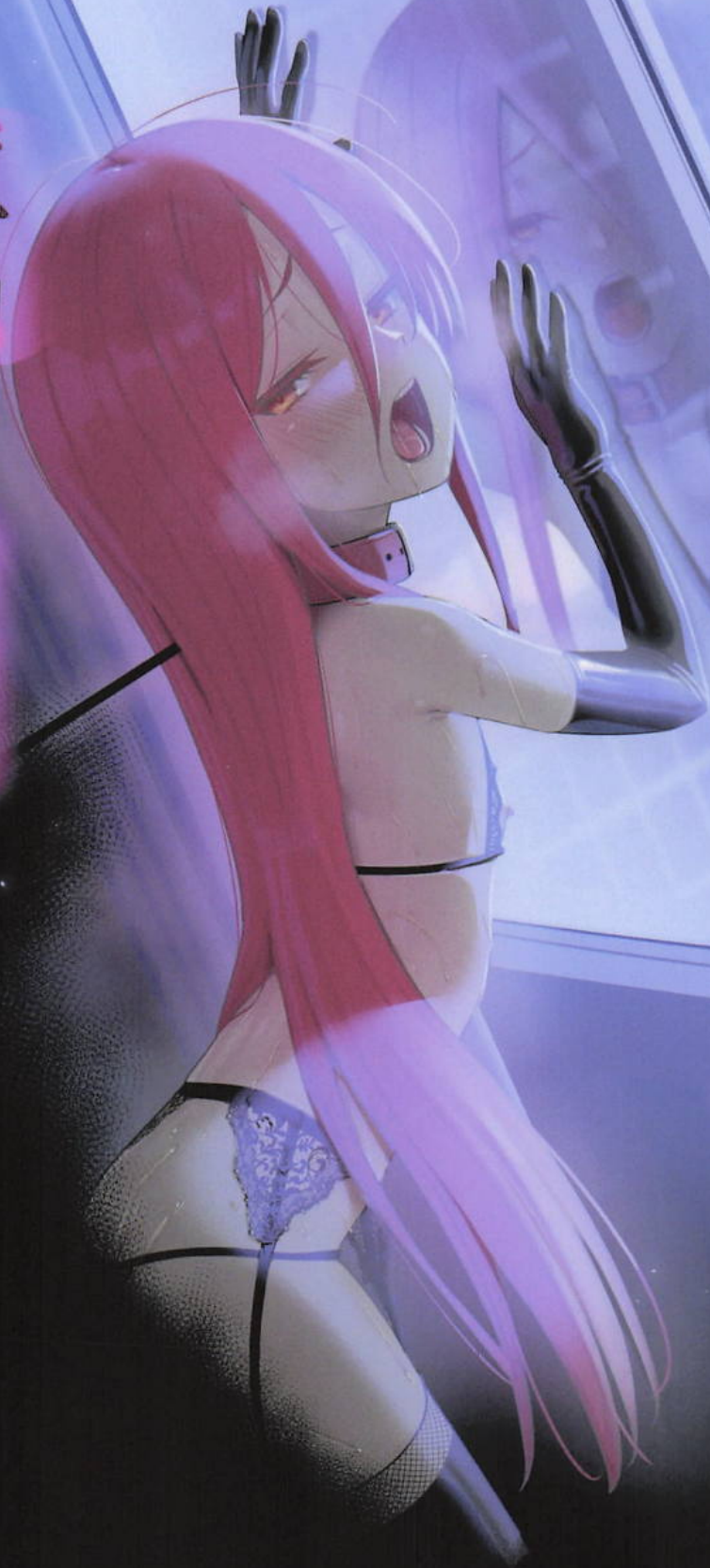


辱
玩
の
媚
び
手



R-18

Adult only

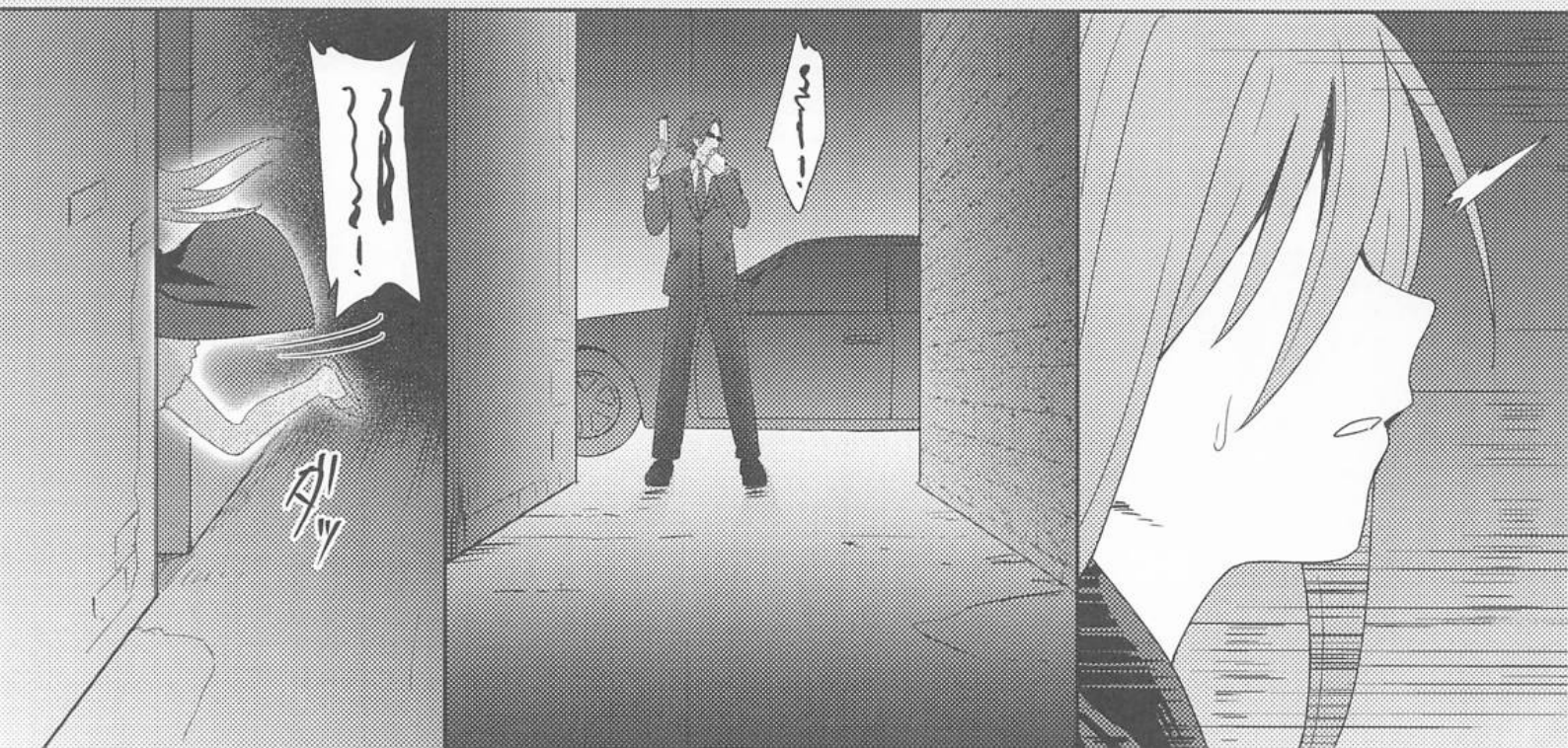
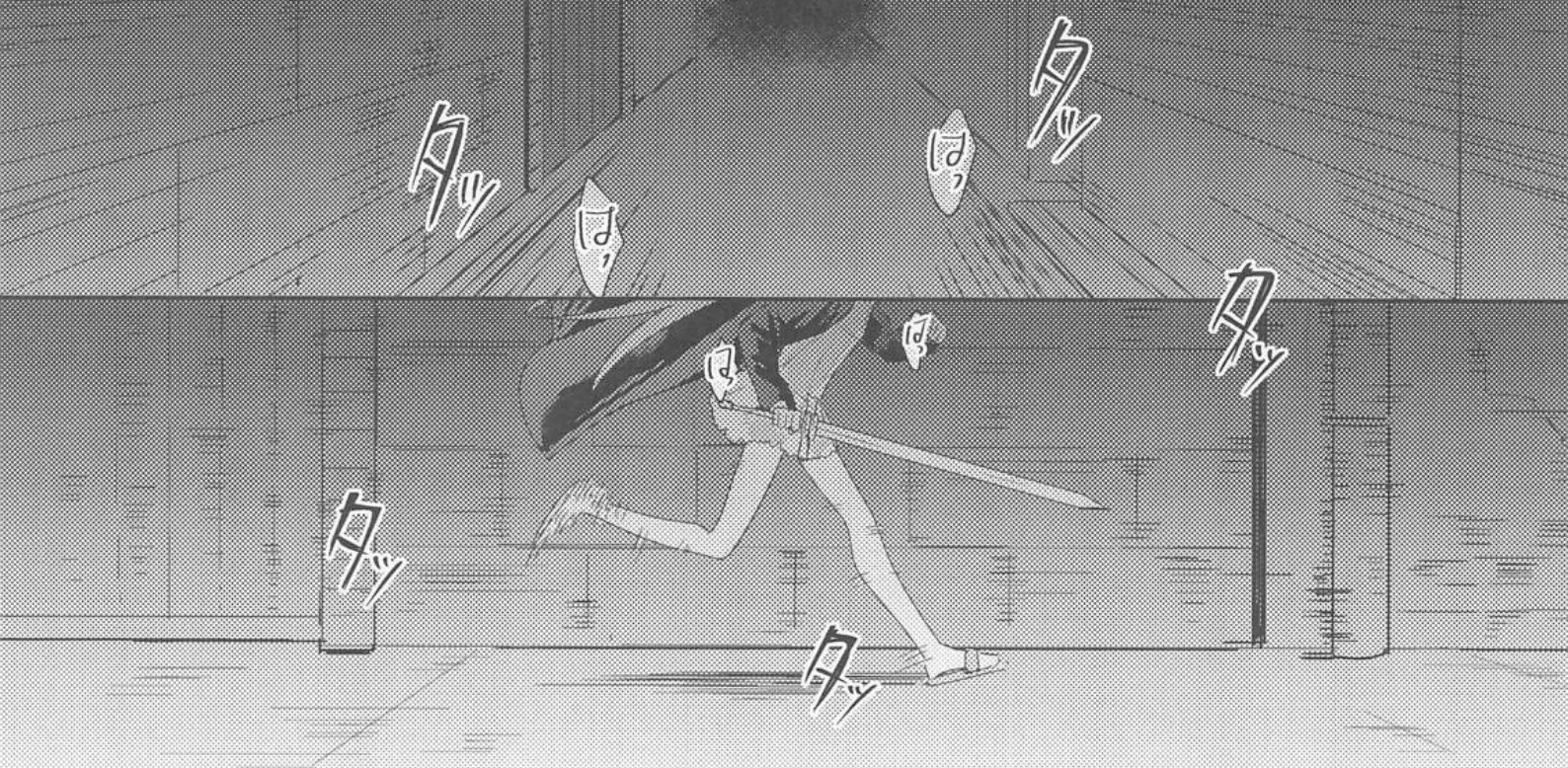
前回までのあらすじ

御崎市への襲撃に乗じた"徒"の卑劣な罠にかかり、囚われの身となったシャナ。

異能の一端を封じられた彼女を待ち受けていたのは、
好色な"徒"による淫辱の日々であった。
愛する者と誓うべき唇は触手に奪われ、無垢な肢体は白濁と快楽に染まった。

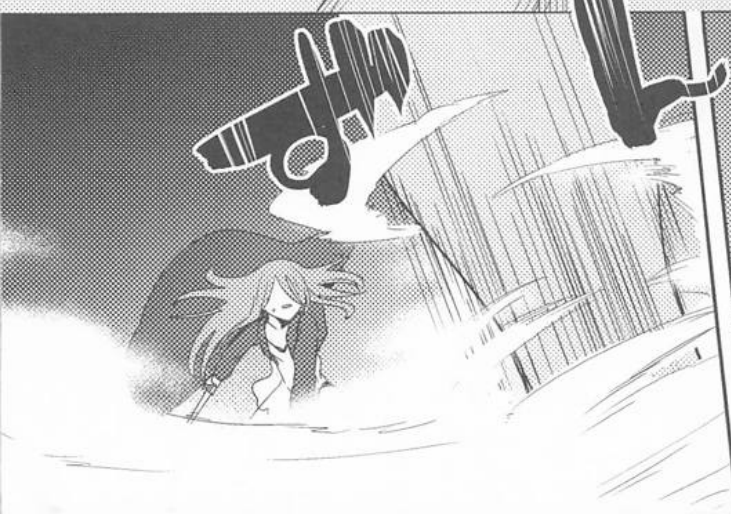
隙をつき脱出を果たすシャナだったが、凌辱の爪痕を癒す時間は与えられない。
未だアラストールとの交信は回復せず、街は《館》の協力者により封鎖された。

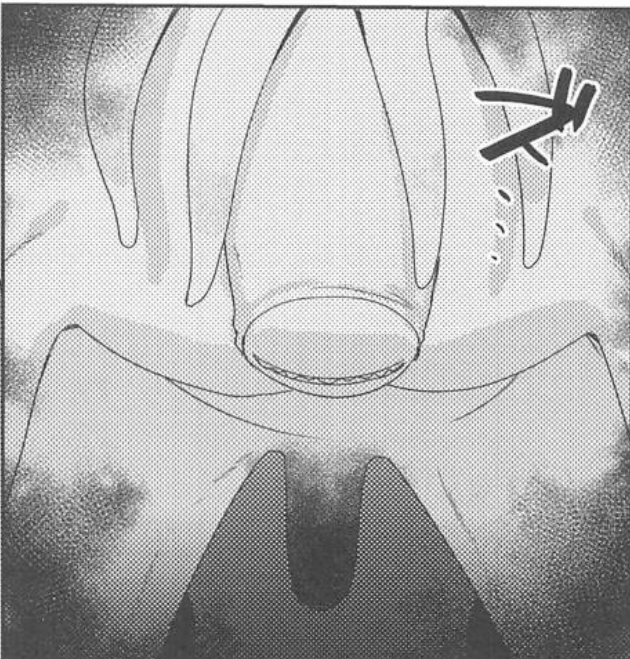
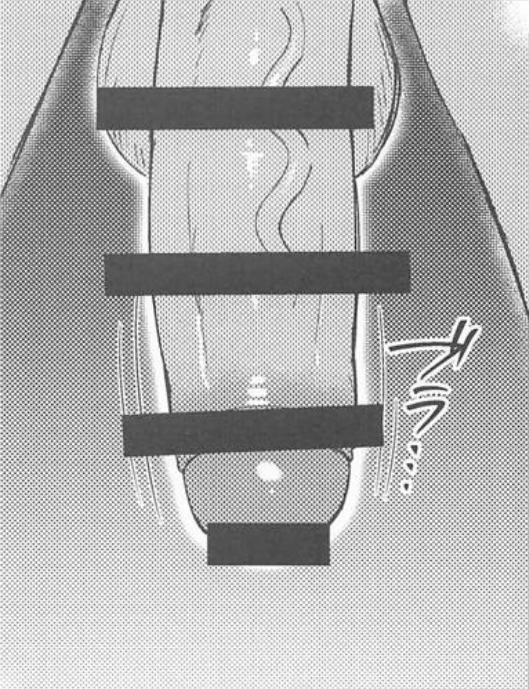
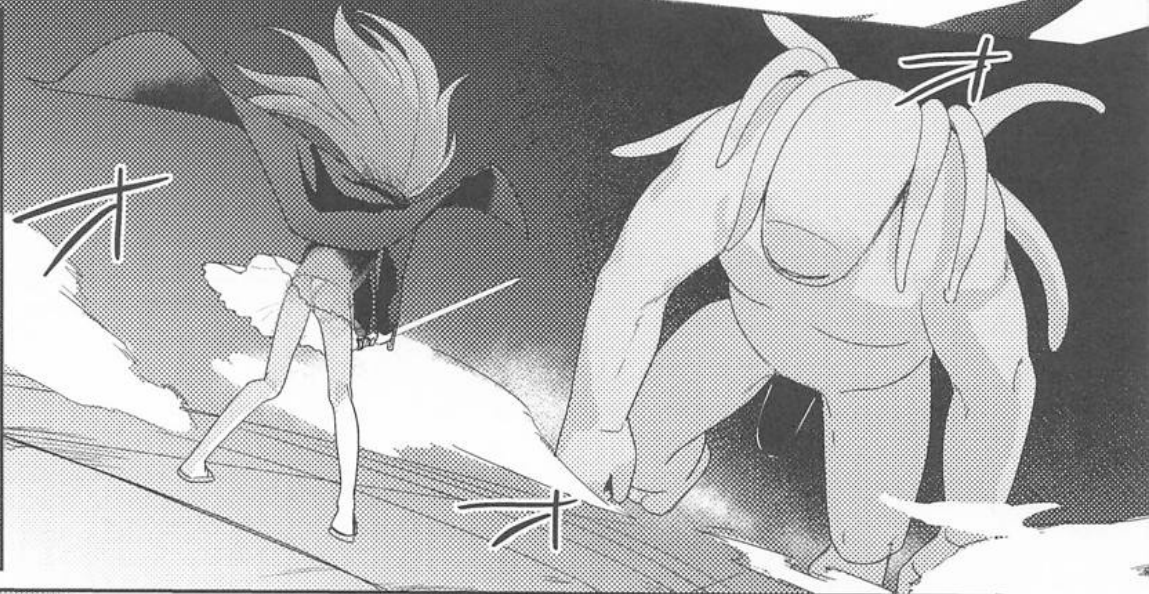
調教に明け暮れた身体は疼きを訴える。
その雌の臭いを嗅ぎ付けたかのように、影法師が少女の背中に迫っていた――

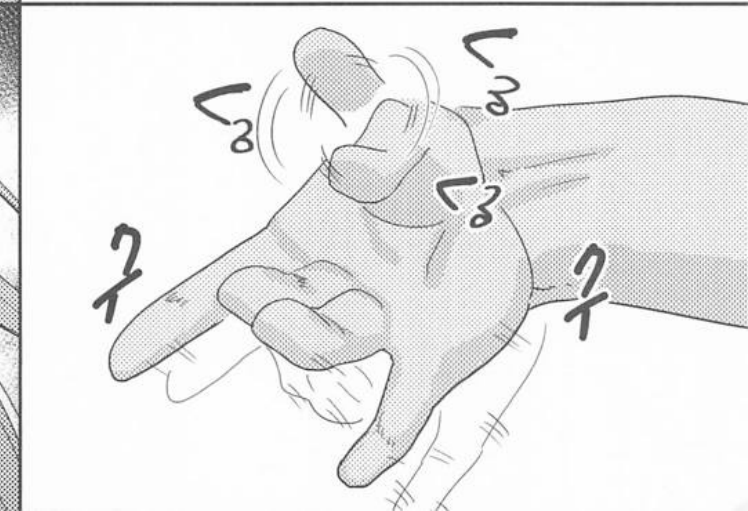
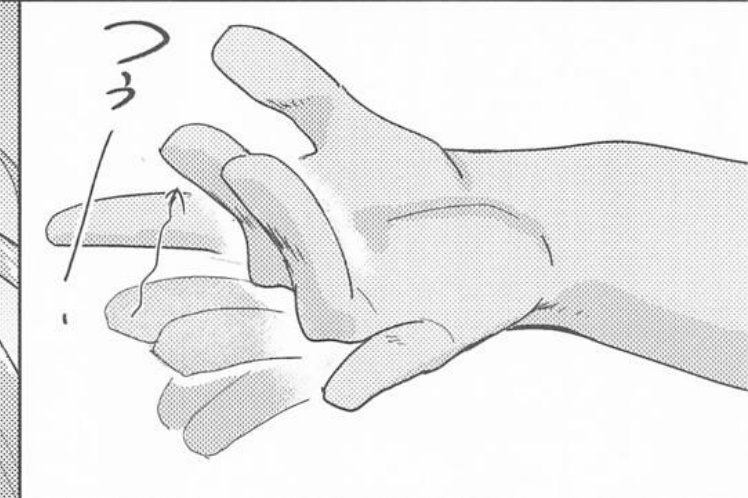
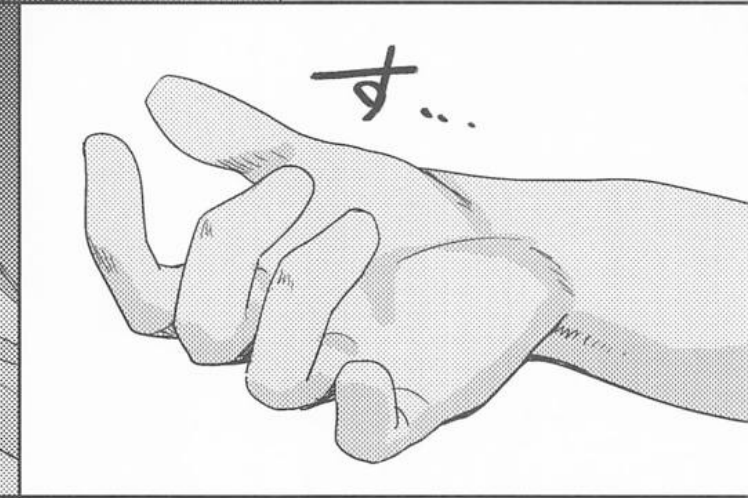




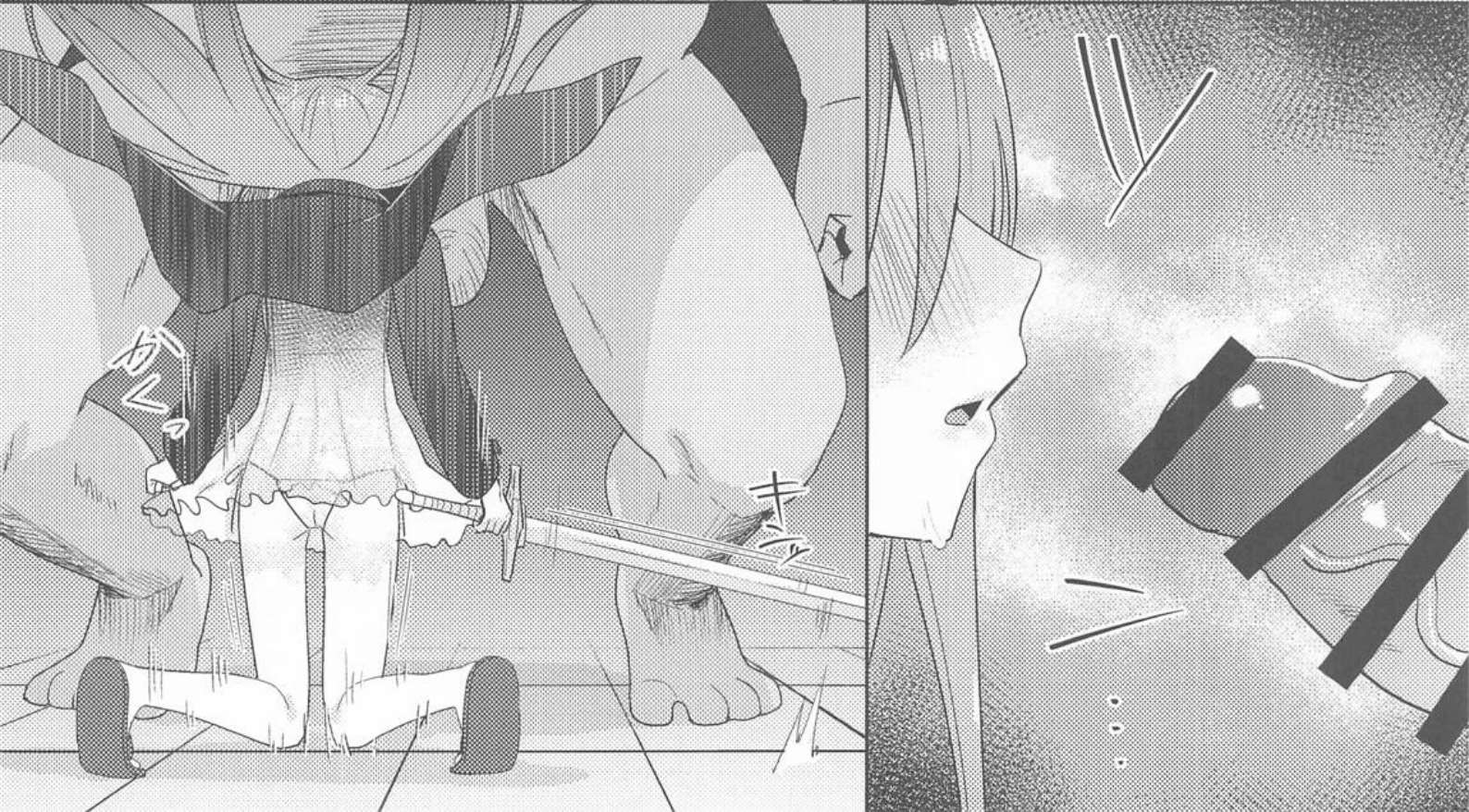
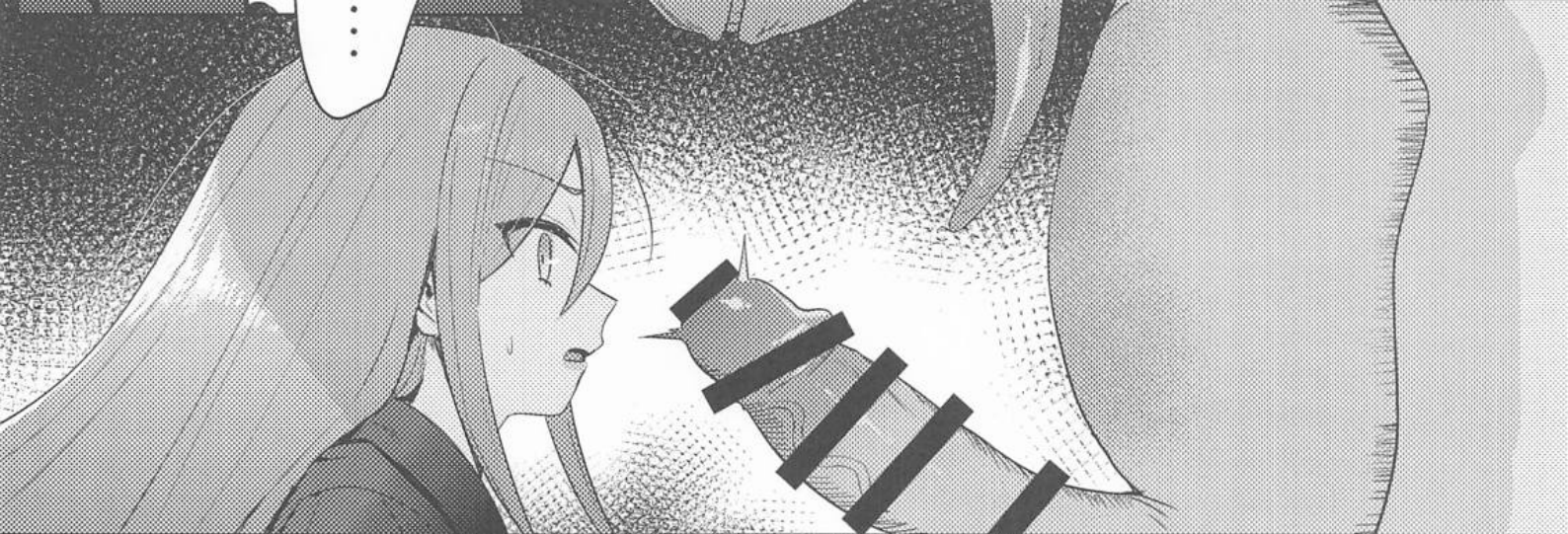
撒いた…？



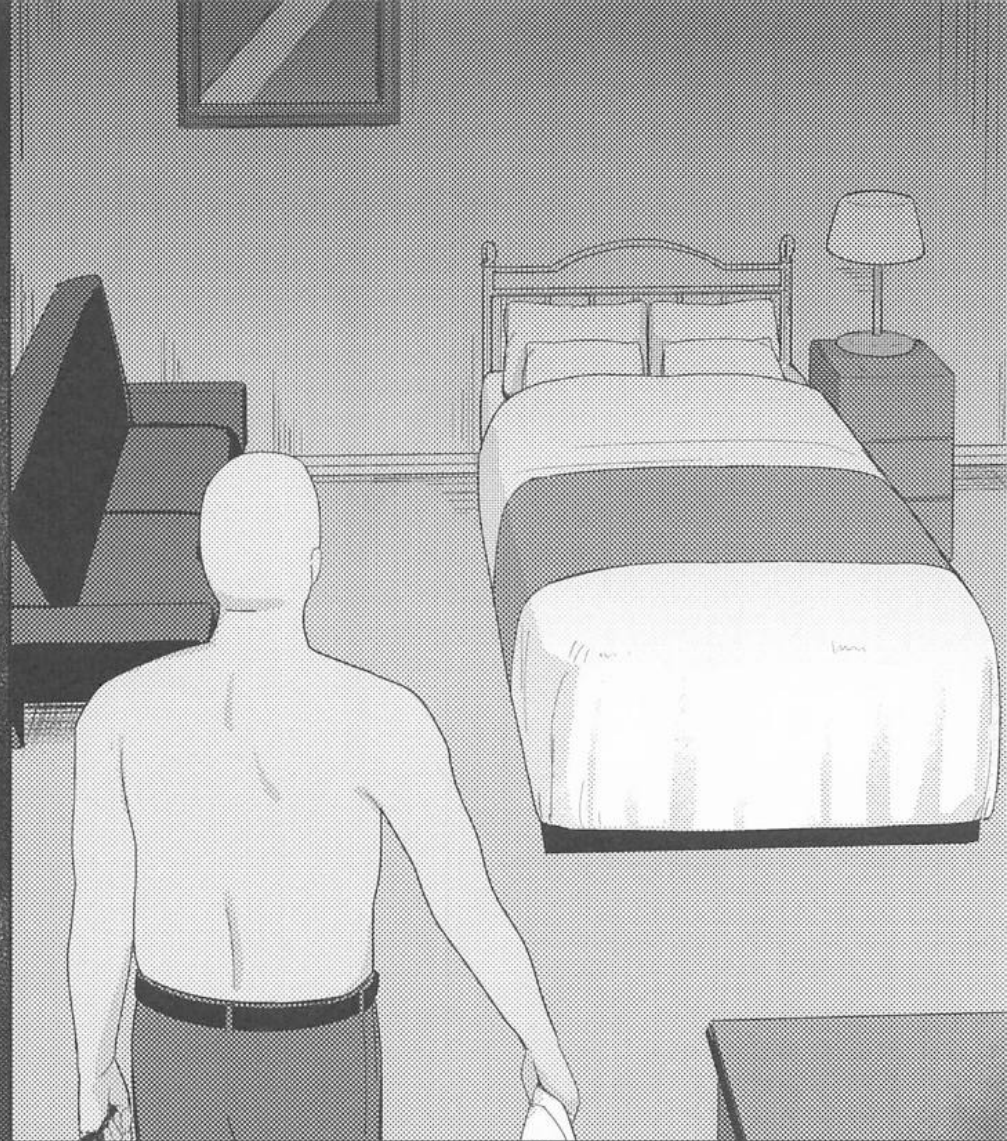
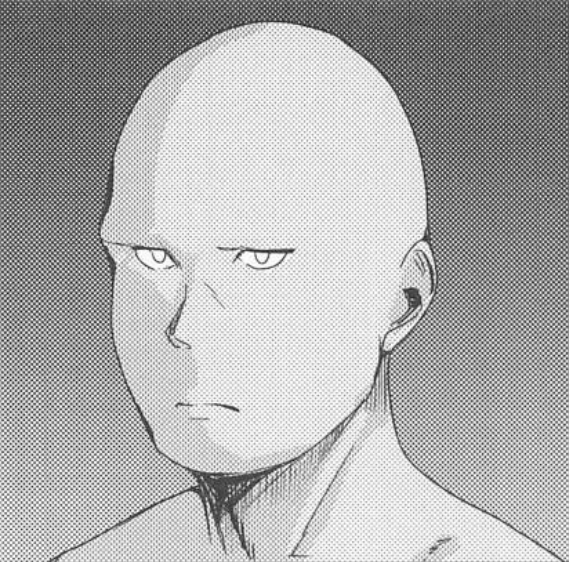


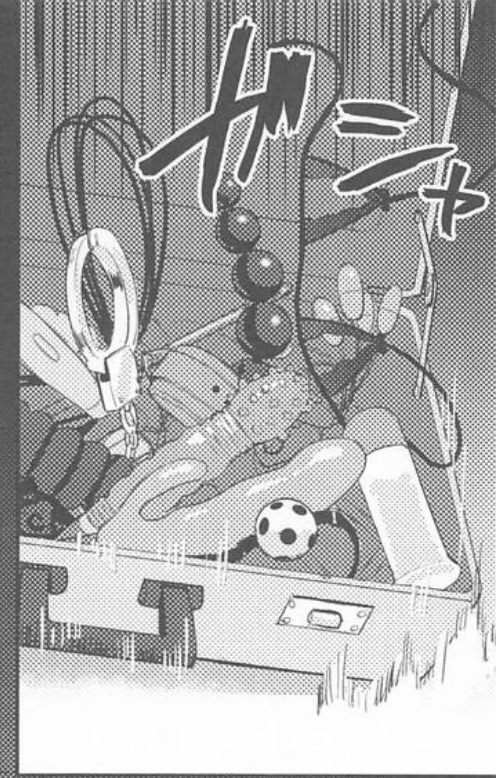
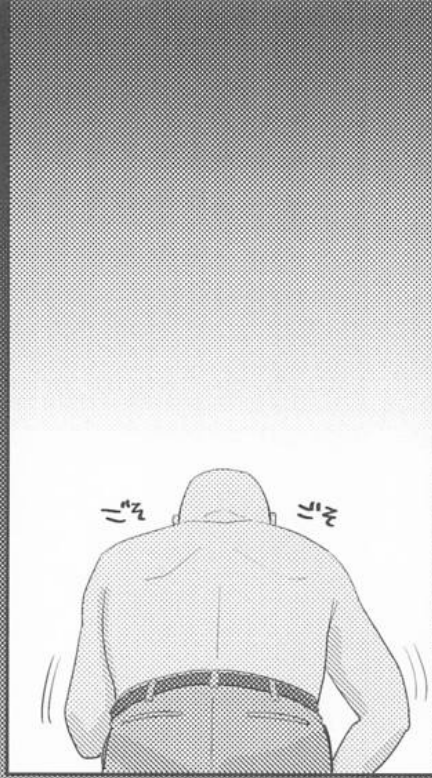
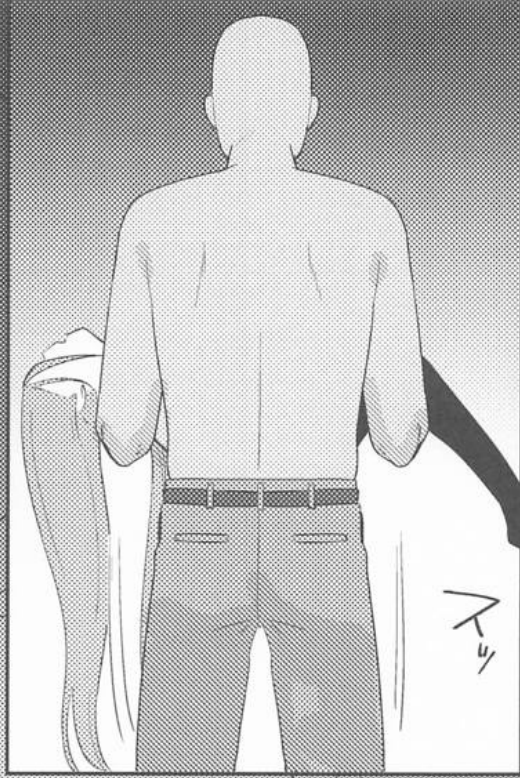














……?

こはー

ん

!!

かほ!

ぬき

ちめし

ぬき ぬき ぬき...

あつ

ッ

ッ

ッ



あーあーあー
あーあーあー
あーあーあー

ゴクッ
ゴクッ

あー



だめー

まだ敏感なの
治ってな
サッ
サッ

あー
あー

あー

あー
あー

あー
あー



こんな
ことでー!

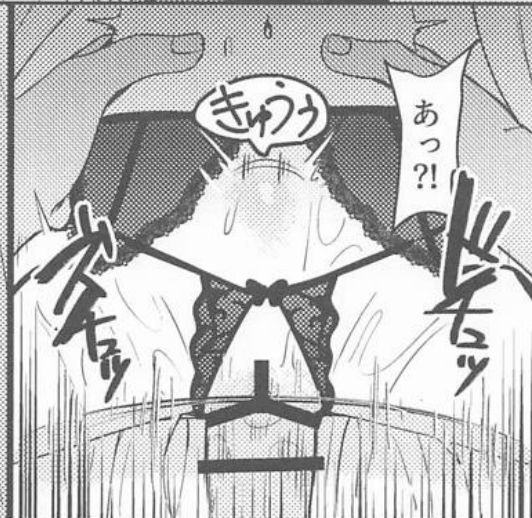
ま・た

あっ
あー

あー

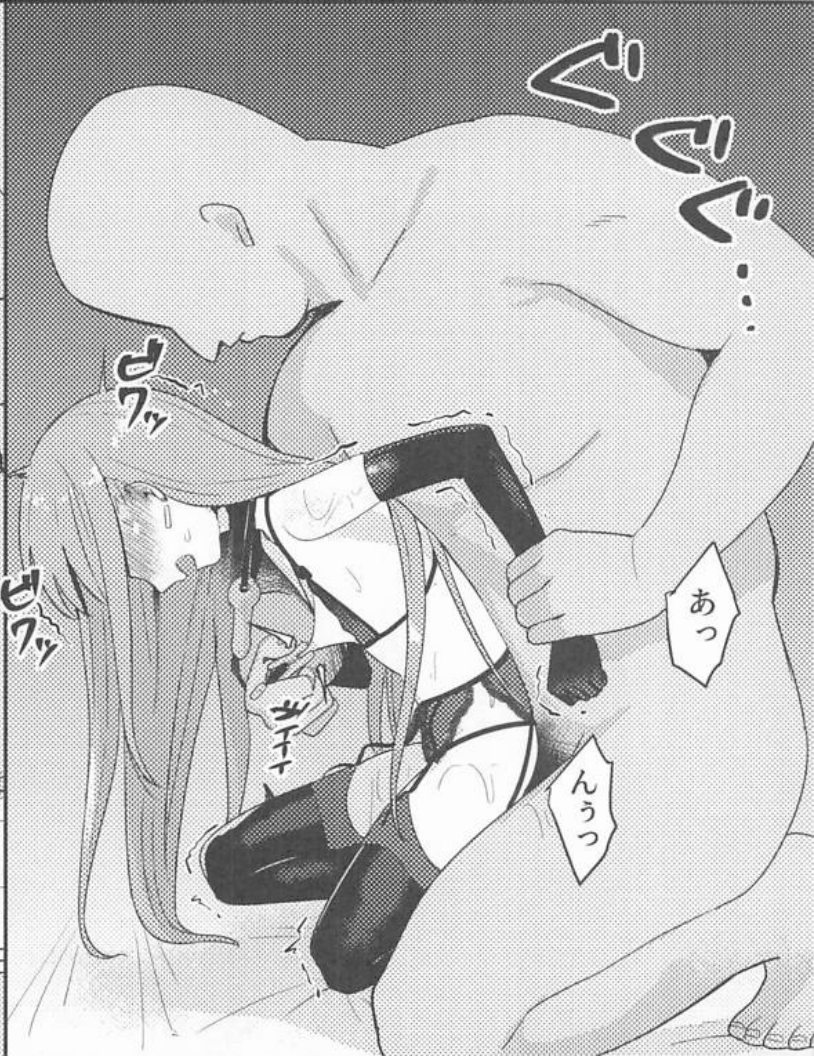
くうっ

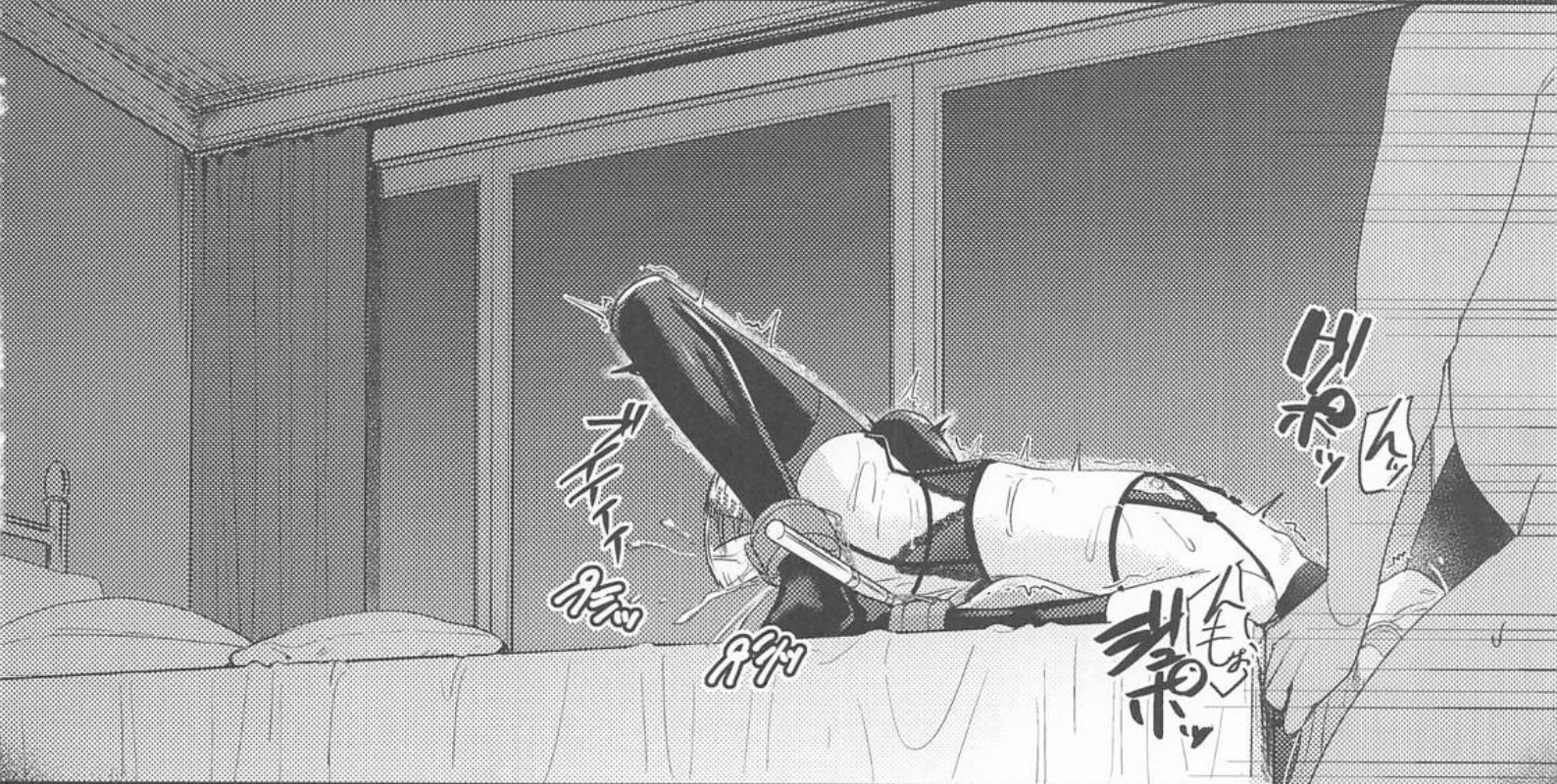
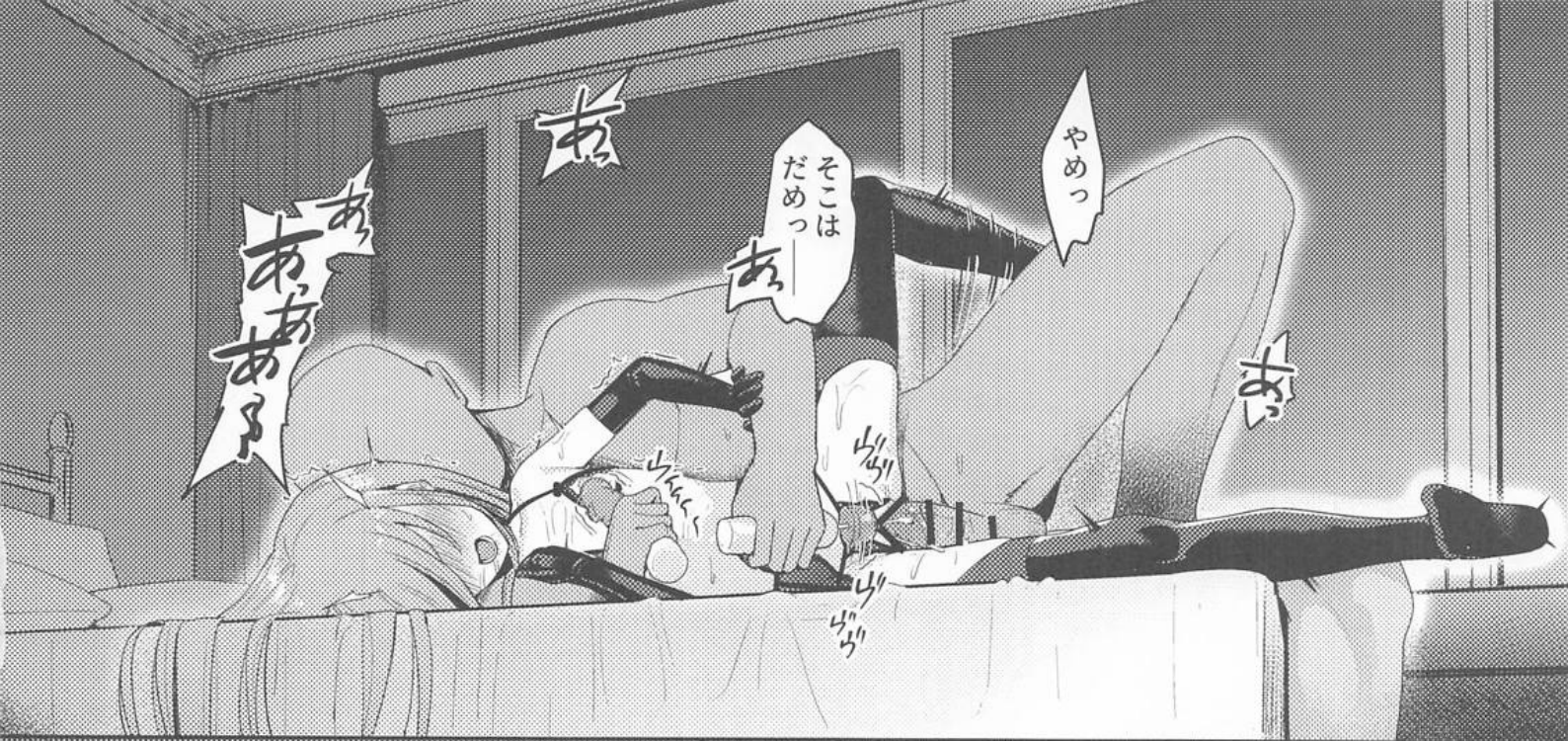






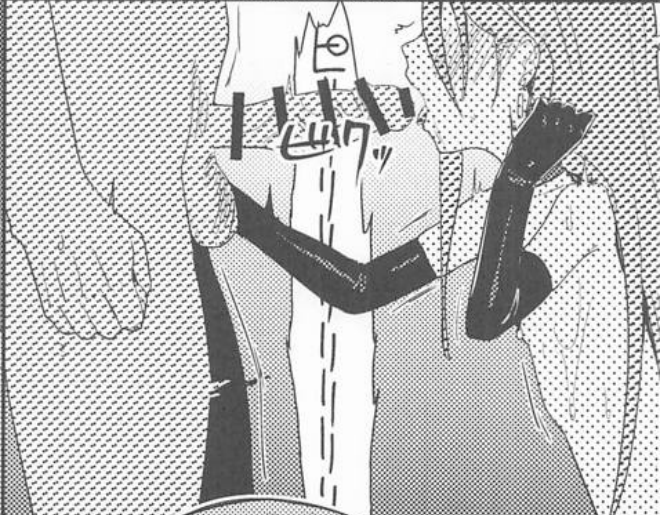
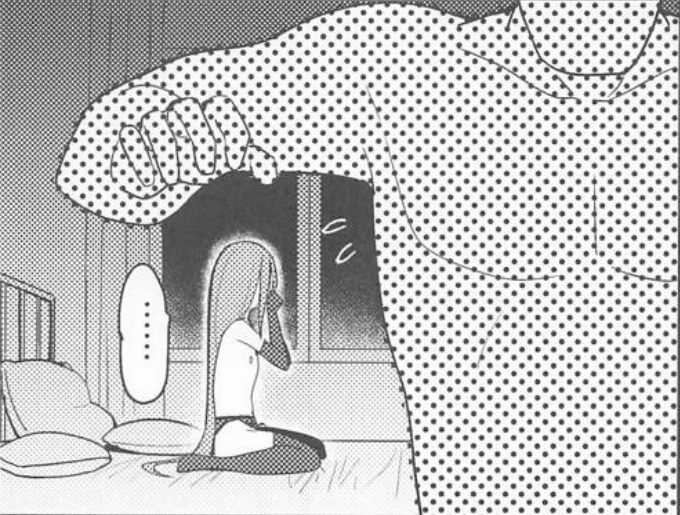
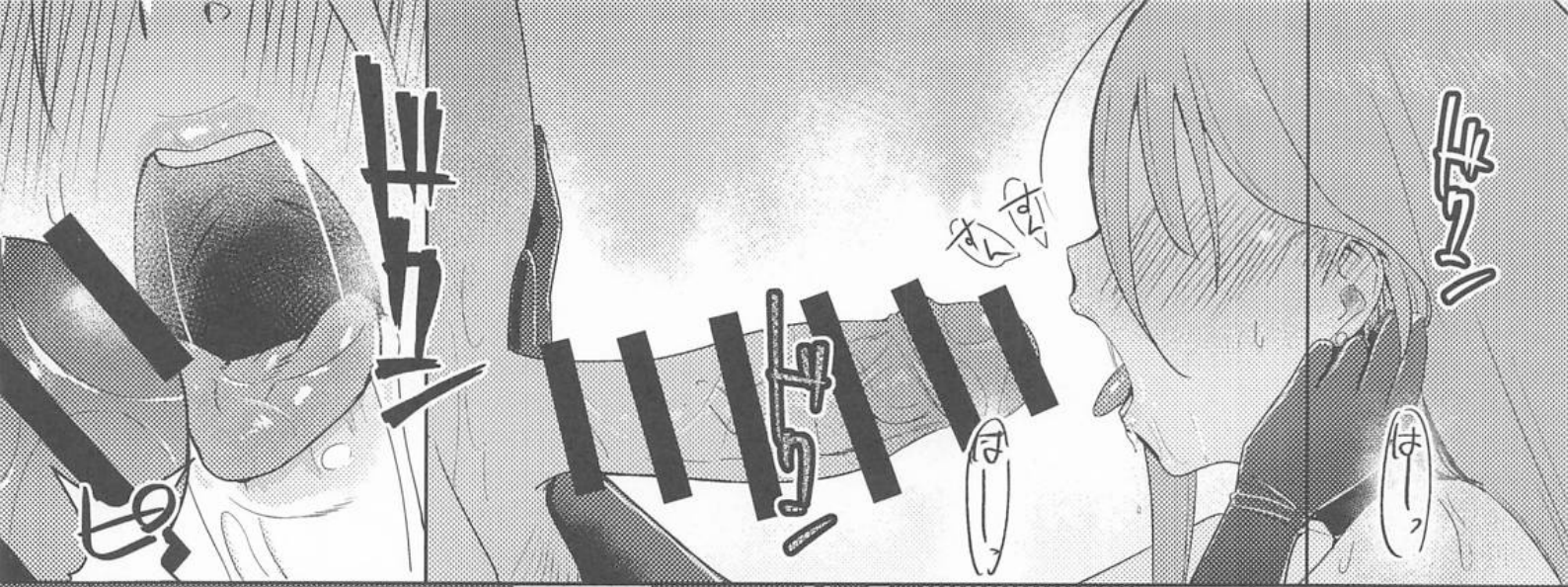














私の選んだ道

私の使命は…

こんなことのためにあの時間があつたんじゃない



逃げないと――



――ッあ、

うー



うううううう



おかえり、
シヤナ

皆とても
心配したよ

無事に帰ってこれて
本当に良かった

久しぶりの外は
楽しめたかな？

彼はよくエスコート
してくれたかい？

皆で
話し合ったんだ

シャナはここでの
生活に退屈して
いるんじゃないかって

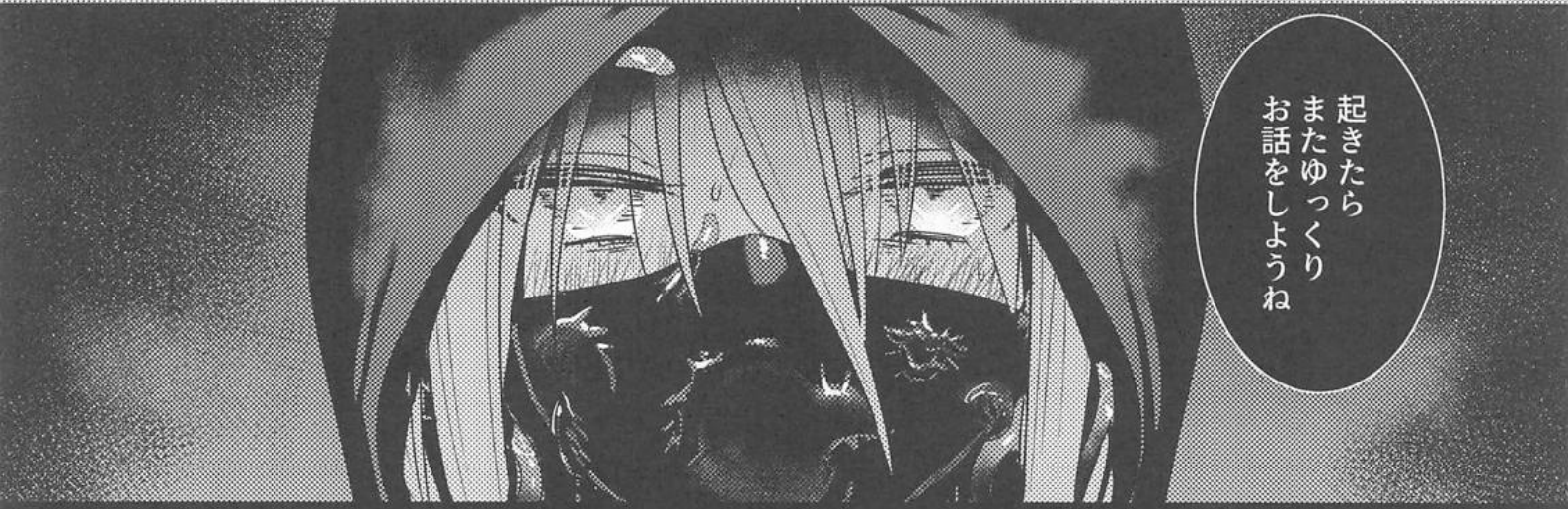
だからこれを
用意したよ



シャナの新しい
《ベッド》だよ

彼のことは
覚えているかな？

しばらくは寝心地を
堪能してほしい



起きたら
またゆっくり
お話をしようね

それじゃあ
おやすみ
シャナ

To be continued...

今回の拘りと名ばかりの重箱の罫、



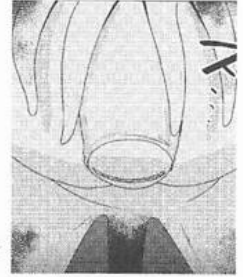
武器が『贄殿遮那』でないのは気付いてもらえたと思いますがコートも『夜笠』ではなく《館》支給のものです。襟が立っていない。

"徒"ではなく"燐子"。

《館》の懲罰・雑務用のところ逃亡したシャナの追手役に。力は人間相手はともかく…という程度。

多少の容量無視の体内収納能力を持つ。また調教用の媚毒液が体内を循環している。蝕監～の"徒"に似ている。

意思総体は弱く、今回見せた挑発的な行動は調教用に搭載されたルーチン内のもの。話さないが人語での命令は理解する。



シャナの時代はスマホの時代ではないのでこいつである。昔の作品のリメイクで携帯電話がスマホになるのが気にかかったりする老人です。

なお気遣ったのは電話の形状だけで他のものまで時代に即せているわけではない。オタク自称を返上すべきでは？

あとがき

ここまで読んでいただきありがとうございます！有魚です。

4冊目の同人誌ですが、1冊目『情館～』の少し前、2、3冊目の『蝕監～』の暫く後のお話になります。時系列があちこちとんで申し訳ない！実は一度トーンを試してみたたく……練習と様子見を兼ねて小話を挟んでおこうということになりました。ただ次回からは元の塗りに戻る予定です。試して色々わかったし面白かったのですが、向き不向きが…ある！折角そうしたのに雰囲気前作までと同じになってしまったのは反省です。バトル中に徒なり燐子なりのイチモツ状のものに思わず目をやってしまう、というシーンから妄想をスタートしたのですがまた喋らない竿役になってしまった。次回こそは喋る奴が出てくる予定であります。

そういうわけで今回のコンセプトは調教の成果が意図せず出てしまう、です。

情館～で書いたようにシャナは自身の境遇の不正さを自覚しながらも、自分の意思でフレイムヘイズになる道を選択しました。なので無理強いされた教育の影響で操り人形のように身体が動いてしまう、というお決まりのスケベ展開はアイロニックでそれだけで文脈が…えっちだな…！となれます。

ところで29ページのナレーション台詞はあれで良かったのか。シャナがアラストールたちに頼れず、悠二も心の拠り所にできないときに、なにを寄る辺にするのかと言えば天道宮での日々ではあると思ったのですが、苦境で自身に発破をかけるときに持ち出すかと言われるとちょっと違う気もする、この言い方だとそれはアラストールたちのかけた執念と労力に対する負い目のニュアンスが発生して前述の選択の件と矛盾しないか？自負の範疇であるか？しかし……と詰め切れないうちに締め切りがきてしまい現状のものになりました。細かいところなのですがもやもやしているのであそこに相応しい台詞をお持ちの方がいればご了見是非伺いたく。あるいはまだ『灼眼のシャナ』を読んでいない方はこれを機に手に取っていただき回答を突き付けていただければ。何卒。

それでは次回こそは『蝕監の墮ち手Ⅲ』でお待ちしております。おそらく。きっと。

『シャナ』アニメ20周年に関わる各種イベントに携わり無限にグッズを供給くださっている方々、気が重くなるが多かった本年中ずっと寄り添ってくださったフォロワーの皆さま、また長年シャナの同人活動を続けいくつもの素晴らしいイラストで盛り上げてくださった某先生に、心より謝意申し上げます。



匿名感想用マシュマロ

発行日：2025/12/30

発行者：有魚／俎上の空欄

bluesky ariu0 pixiv 6289657 twitter _ariu0

Mail: ea1iu0@gmail.com

印刷所：サンライズパブリケーション(株)様

※本書はフィクションです。実在の人物・団体とは一切関係ありません。

※本書の無断転載・複製・Web上へのアップロードを禁止します。

Any unauthorized reprint, repost, copy and upload is strictly prohibited.



俎上の空欄() / 有魚